

学校だより しらかば



第5号

令和8年 7月23日
西興部中学校

ととのい、笑い、自らを知った一学期

校長 川合 伸幸

一学期が終わります。四月、ドキドキしながら始まった日々を、子どもたちは一日一日、確かに歩んできました。その歩みを、保護者・地域の皆様と一緒に振り返りたいと思います。

四月に私は、今年度の三つのステップとして「ととのう」「笑門福来」「自知者明」という言葉をお伝えしました。この一学期は、まさにその言葉どおりの歩みでした。

まずは「ととのう」。新しい教室、新しい仲間の中で、子どもたちは生活と学びの土台を整えてきました。上級生が新入生を温かく迎えた入学式。日々の授業では、一人一台のタブレットと教科書を広げ、一つ一つの課題に真剣に向き合う姿がありました。分からないときは先生に問い、仲間と考え合う。さらに、茶道体験で作法を学び、地域学習で村の産業に触れ、子牛にミルクをやる姿。学びは教室をこえて広がり、西興部という村ぜんぶが、子どもたちのフィールドになりました。これも、快く受け入れてくださる地域の皆様のおかげです。

次に「笑門福来」。笑う門には福来る、という意味です。この一学期は、たくさんの笑顔が学校に福を呼び込みました。新入生を迎える会の演奏、他校の仲間と集った吹奏楽の合同講習会、体験入部で先輩がやさしく教える姿、そして全校でエールを送った野球部の壮行会。仲間とのつながりが、一人一人の力になっていく。小さな学校だからこそ、その温かさが学校いっぱいに広がりました。

そして「自知者明」。自分自身をよく知る人こそ、本当に賢い、という意味です。運動会では、競技も進行も、子どもたちが自分たちの手で創り上げました。うまくいかないことに何度も挑戦する中で、自分の得意・不得意と向き合い、仲間と力を合わせることを学びました。小学校との合同運動会本番では、綱引きの先頭に立ち、リレーでバトンをつなぎ、放送席で運営を支える。全力で走りぬく姿、やりきったあとの清々しい表情こそが、成長の証です。十二名一人一人が主役となった、たしかな歩みの一学期でした。

その一つ一つの成長を、そばで見守り支えてきた私たち教職員にとって、これほど嬉しいことはありません。

まもなく夏休みが始まります。日常を離れて過ごす時間もまた、子どもたちにとって大切な学びの時です。ご家庭で、地域で、温かく見守っていただければ幸いです。二学期、また一段と成長した子どもたちと再会できることを楽しみにしています。

一学期の一区切りは、次のステップへの出発点でもあります。

「しっばいなんて、へのかっぱ」失敗を恐れず、ありのままの自分で、なんとかなると前を向き、やってみようと一歩を踏み出す。そんな子どもたちの挑戦を、これからも支え、一人一人の歩みを見届ける学校でありたいと、あらためて心に刻んでいます。

◆「一学期振り返り動画」

子どもたちのあゆみをスライドショーにしました。
よろしければ右記 QR コードから、ご覧ください。

夏休み・8月行事予定

夏季休業 7月24日(金)～8月17日(月)
学校閉庁日 8月10日(月)～8月14日(金)
(緊急連絡先：村教委 87-2501)

7月

24日(金) 夏季休業開始

27日(月) 海外体験学習(ジュノー)～8/2

8月

3日(月) PTA ラジオ体操(森公園)～8/7

6日(水) 夏の学習会～7日

7日(木) PTA 花火大会(19:30 西小)

11日(火) 山の日

18日(火) 2学期始業式

19日(水) 委員会

20日(木) スクールカウンセラー来校

24・25日(月・火) 前期期末テスト

28日(金) 1・2年生学力テスト

地域を知り、未来を考える ～総合的な学習の時間・地域との交流～

総合的な学習の時間の取組で3年生が興栄ファーム・ワイルドミートを訪れました。また、吹奏楽部が戦没者追悼式典で演奏を披露しました。実際に地域の方とお話をしたり、行事に参加したり、生徒たちは地域の魅力や誇りだけではなく、人口減少や担い手不足など地域が抱える課題についても知ることで、大切なことはその課題に対して、「自分にできることを考える」ことです。一人ひとりが自分事として考え、気づき、地域を支える未来の力につながっていきます。今回訪問を快く引き受けてくださった興栄ファームの皆さま、戦没者追悼式典を担当されている方々には、大変お世話になりました。ありがとうございました。

授業にお邪魔します！！ ～西中の授業の紹介・保健編～

「目の前で人が倒れたら自分はどう行動するか」をテーマに、クラスメイトとの対話を通じて、救急救命の場面で必要な行動について考えました。互いの考えを比べたり理由を伝え合ったりすることで、一人ひとりが「命を守るために自分にできること」を深く考える学びとなりました。実践では身近なものを使って応急処置に取り組めることがわかる授業の仕掛けもあって、生徒たちは考えを巡らせていました。

～電子黒板導入しました！～

5月に電子黒板が導入されました。生徒の学びが深まるよう研修部中心に研鑽を重ねています。通常のスクリーンとは違い、直接書き込めるため、考えを比較したり、図を関連付けたり、全体の学びを可視化する等、まだまだ学びは深まる予感です。

社会科では課題提示、見通しを持たせた知識の習得への活用。数学科では生徒が実際に触れながら自らの考えの説明。英語科では様々な提示資料を分けながら思考を表現に置き換える活動で活躍しています。

いじめアンケートの結果の報告について

- 嫌な思いをしたことはありますか。
ある1名　ない11名
- どのようなことをされましたか（上記回答者のみ）
・仲間はずれや無視をされる
- 誰に相談しますか（※複数回答）
・学校の先生8名
・スクールカウンセラー1名
・友人9名
・家族8名
・電話相談0名
・メールなどの相談窓口1名
・誰にも相談しない3名
・その他3名（祖父母など）

先日実施いたしました「いじめアンケート」につきましては一つひとつの事案について状況を丁寧に把握し、必要に応じた指導や支援、働きかけを行い解決に向けた取組を進めております。

また、昨年度の比較より「だれに相談しますか」の項目について「だれにも相談しない」の割合が減少しました。大切なことは、周囲に相談ができる環境があるということです。日頃より「相談する」こと、「一人で抱え込まない」こと、「みんなで一緒に考えていく」ことが大切です。

困りごとの相談窓口

いじめや不登校、体罰などの様々な困りごとがある世の中です。本校での各種相談窓口は、**教頭小久保**が担当となっております。直接相談しにくい場合は、担任、養護教諭、部活動顧問など話しやすい職員でも構いません。また、北海道教育委員会では「子ども支援センター」を設置していますので、そちらに相談していただくこともできます。

子ども相談支援センター 相談窓口のお知らせ

いじめや不登校、体罰などの学校教育に関する悩み、子育て・しつけなど家庭教育に関する悩みなど相談してください。



●電話相談
☎ 0120-3882-56
(無料、毎日24時間対応)

●メール相談
doken-sodan@hokkaido-c.ed.jp
※急ぎの場合は電話相談を利用してください。

●来所相談
(10～18時、土日・祝日、年末年始はお休みです。)
子ども相談支援センター
札幌市中央区北3条西7丁目道庁別館8階
※上記の電話相談で予約してください。